

立山曼荼羅研究の最前線

富山県〔立山博物館〕係長・学芸員 福江 充

1. 立山曼荼羅諸本の現存状況と分類（平成23年3月3日現在）

1-1. 法会や祭礼の描写がある立山曼荼羅

no	作品名	形態	法量	作成時期	所蔵
①最新の科学調査でとらえた立山曼荼羅（現存作品のなかで古い構図・図柄を有する作品群）（模写系譜1）					
01	来迎寺本	紙本4幅	内寸164.5×240.0、外寸218.8×263.6		来迎寺蔵
02	坪井家A本	紙本4幅	内寸176.0×186.0、外寸210.0×190.0	天保元年（1830）以前	個人蔵
03	金蔵院本	絹本4幅	内寸155.0×195.0、外寸205.0×211.0		金蔵院蔵
04	立山黒部貫光株式会社本	絹本3幅	内寸143.0×173.0、外寸193.5×180.9		同会社蔵
②立山信仰の布教者側の影響が強い作品群					
05	佐伯家本	紙本4幅	内寸149.0×180.0、外寸183.5×192.0		個人蔵
06	坪井家B本	紙本4幅	内寸150.0×150.0、外寸170.0×170.0		個人蔵
07	相真坊A本	絹本5幅	内寸136.0×203.0、外寸未測定		個人蔵
③立山信仰の受容者側の影響が強い作品群（模写系譜2）					
08	相真坊B本	絹本4幅	内寸150.0×216.5、外寸199.5×235.0		個人蔵
09	大仙坊A本	絹本4幅	内寸133.0×157.0、外寸163.0×164.5		大仙坊蔵
10	筒井家本	絹本4幅	内寸145.0×207.0、外寸197.0×227.5		個人蔵
11	善道坊本	紙本4幅	内寸131.5×179.0、外寸191.0×191.0		個人蔵
④立山信仰の受容者側（江戸の上級身分者）の影響が強い作品群（模写系譜3）					
12	宝泉坊本	絹本4幅	内寸140.0×180.0、外寸222.0×198.0	安政5年（1858）	個人蔵
13	吉祥坊本	絹本4幅	内寸128.5×147.0、外寸210.5×162.6	慶応2年（1866）	個人蔵
14	越中書林本	紙本1幅	内寸173.0×90.0、外寸233.0×108.0		個人蔵
⑤立山信仰の受容者側の影響が強い作品群（特に浮世絵師有楽斎長秀と立山曼荼羅）（模写系譜4）					
15	稲沢家本	絹本3幅	内寸140.0×166.5、外寸196.5×198.0		個人蔵
16	多賀坊本	紙本1幅	内寸93.0×84.0、外寸未測定		多賀坊蔵
⑥立山信仰の受容者側の影響が強い作品群（立山曼荼羅の創作性・芸術性）					
17	最勝寺本	紙本1幅	内寸175.0×96.0、外寸261.0×137.5	安政2年（1855）	最勝寺蔵
18	大江寺本	紙本1幅	内寸190.0×220.0、外寸220.0×260.0		大江寺蔵
19	龍光寺本	紙本4幅	内寸167.0×223.0、外寸未測定		龍光寺蔵
20	大仙坊B本	絹本4幅	内寸156.0×212.0、外寸未測定		大仙坊蔵
21	大徳寺本	紙本4幅	内寸170.0×185.0、外寸未測定		大徳寺蔵
⑦立山信仰の受容者側の影響が強い作品群（模写系譜5の1）					
22	富山県立図書館本	絹本4幅	内寸133.0×153.0、外寸140.0×210.0		県立図書館蔵
23	泉蔵坊本	絹本4幅	内寸122.0×134.0、外寸164.5×149.0		円隆寺蔵
24	立山町本	紙本4幅	内寸122.5×124.0、外寸162.0×144.0		立山町蔵
⑧近代の立山曼荼羅（芦峯寺宿坊家との関係が深い）（模写系譜5の2）					
25	坂木家本	紙本4幅	内寸134.5×147.0、外寸170.3×157.8		個人蔵
26	日光坊B本	紙本3幅	内寸110.0×90.7、外寸160.8×110.1		個人蔵
27	玉泉坊本	絹本1幅	内寸94.3×47.0、外寸180.0×71.0		個人蔵
⑨特定の図柄のみが描かれた作品群					
28	日光坊A本	絹本1幅	内寸41.0×54.5、外寸124.0×64.0		個人蔵

29	大仙坊C本	紙本2幅	未測定		大仙坊蔵
----	-------	------	-----	--	------

1—2. 法会や祭礼の描写がない立山曼荼羅

no	作品名	形態	法量	作成時期	所蔵
①木版立山登山案内図と立山曼荼羅（模写系譜1）					
30	市神社本	紙本1幅	内寸102.0×55.5、外寸169.0×70.0	文化3年（1806）	市神社蔵
31	広川家本	紙本1幅	内寸135.0×60.0、外寸187.0×74.0		個人蔵
32	飯野家本	紙本1幅	内寸122.3×43.2、外寸186.0×59.6	天保6年（1835）か？	個人蔵
33	立山博物館C本	紙本1幅	内寸119.0×58.8、外寸171.5×68.0		立山博物館蔵
34	志鷹家本	紙本1幅	内寸137.0×86.0、外寸193.8×105.0	天保7年（1836）	個人蔵
35	立山博物館B本	紙本2幅	内寸133.0×112.0、外寸203.0×132.0		立山博物館蔵
②山絵図風の立山曼荼羅（岩嶽寺宿坊家との関係が明らかな作品）					
36	立山博物館A本	紙本2幅	内寸131.7×117.6、外寸214.5×131.2	文政2年（1819）	立山博物館蔵
37	玉林坊本	紙本4幅	内寸143.0×202.0		個人蔵
③山絵図風の立山曼荼羅（岩嶽寺宿坊家との関係が明確でない作品）					
38	桃原寺本	紙本4幅	内寸156.0×188.0、外寸183.5×192.0		桃原寺蔵
39	伊藤家本（欠本あり）	紙本2幅	内寸157.0×95.2、外寸190.0×134.0		個人蔵
40	村上家本（欠本あり）	紙本1幅	未測定		個人蔵
41	専称寺本	紙本3幅	内寸148.2×176.1、外寸174.5×199.8		専称寺蔵
42	竹内家本	紙本4幅	内寸134.5×182.0、外寸174.0×222.0		個人蔵
43	藤縄家本	紙本2幅	内寸右94.0×55.7、同左124.3×56.0		個人蔵
④山絵図風の立山曼荼羅（岩嶽寺一山との関係〔争論関係〕が深い）					
44	称念寺A本	紙本2幅	内寸176.0×91.0、外寸209.0×191.3		称念寺蔵
45	称念寺B本	紙本2幅	内寸153.0×136.8、外寸199.0×143.9	文化10年（1813）	称念寺蔵
⑤近代の立山曼荼羅（岩嶽寺宿坊家との関係が深い）					
46	中道坊本	紙本4幅	内寸124.7×225.0、外寸193.3×242.0		個人蔵
47	個人蔵本	紙本4幅	内寸149.5×225.3、外寸231.0×263.0		個人蔵
48	四方神社本	屏風半双	内寸170.0×175.0		四方神社蔵

1—3. その他（参考作品）

49	称名庵本	紙本1幅	内寸90.5×76.7、外寸154.5×93.0	箱、天保14年（1843）	立山博物館蔵
----	------	------	--------------------------	---------------	--------

2. 「立山曼荼羅」とは

越中立山の山岳宗教に関する絵画史料として「立山曼荼羅」と称される掛軸式の絵図がある。それは、立山にかかわる山岳宗教、いわゆる「立山信仰」の内容が、大きなものでは掛け合わせて縦160cm×横240cmの大画面に網羅的に描かれた掛軸式絵画のことである。現在、全国各地に49点の作品が確認されている。

この「立山曼荼羅」の呼称は、富山の郷土史家草野寛正氏が、昭和11年（1936）に氏の論文「立山姥堂の行事考」のなかで用いて以降、研究者のあいだで次第に普及し、今では一般の人々にも周知されてきている。しかし江戸時代の芦崎寺文書や立山曼荼羅の軸裏の銘文などに、立山曼荼羅が「曼荼羅」の用語で表現されている場合も幾例か見られるとはいえ、大抵は「御絵伝」や「有頼由来立山御絵」、「開山之行状之御絵伝」などの用語で表現されている。いわゆる密教系の曼荼羅よりも浄土真宗の高僧絵伝などの性格に近いものとして認識されていたようである。

形態については、1～3幅本や5幅本も若干見られるが、現存のほとんどのものは4幅本である。おそらく、衆徒が廻壇配札活動や出開帳など移動をともなう活動で、携帯性を考慮して掛幅形式にしたものであろう。4幅を掛け合わせると立山信仰の各種物語を網羅した大画面ができあがる。画面には、立山の山岳景観を背景として、この曼荼羅の主題である立山開山縁起の幾つかの場面をはじめ、立山地獄の様子、阿弥陀如来と諸菩薩の来迎場面、立山山麓・山中の名所や旧跡、芦峯寺布橋大灌頂法会の様子などが、マンダラのシンボルの日輪（太陽）・月輪（月）や参詣者などとともに巧みな画面構成で描かれている。

一方、別の視点で立山曼荼羅を見ていくと、その画面には立山連峰上空の天道や立山地獄谷の地獄道・餓鬼道・畜生道・阿修羅道、立山山麓の人道など、いわゆる六道の表現（六道絵）と、阿弥陀聖衆来迎の表現といった二つのモチーフが描かれており、したがってこれは、「六道・阿弥陀聖衆来迎図」としても位置づけることができる。こうした立山曼荼羅は、立山信仰を布教した立山衆徒（芦峯寺衆徒と岩峯寺衆徒）に絵解きされ、全国的に大変人気を集めた。